

～商店街ハック（Hello And Collaboration Kyoto）事業～
京都・商店街ゲストトーク 01

『まちはぼくらのあそび場なのだ』開催結果

- 1 日時：平成27年9月20日（日） 14時～17時30分
- 2 場所：KRP町家スタジオ（京都市上京区）
- 3 趣旨：

京都の商店街でも空き店舗が増加し、シャッター商店街と呼ばれるところも増えてきている。昔ながらの風景が消え、同時に人とのつながりも薄れつつあり、いつの間にかその場所は駐車場や住宅へと変わっていく…時代の変化ではあるが、その変化の中でも商店街をまちの魅力として捉えて、新しい価値をつくっていくことはできると思う。本企画はそんな新しい価値創造に向けての取り組みの一環である。

- 4 参加者：商店街活性化に関心のある団体・若者など約40名（SNS等で募集）



5 概要

■14時～ イベントの趣旨説明、チェックイン・参加者自己紹介

■14時20分～ ゲストトーク

nanoda 代表・塩尻市役所職員 山田崇氏によるゲストトーク

- ・ 塩尻市役所職員有志でアフター5に勉強会をスタート。ただし、勉強するだけで行動に移さないと意味がないので（半径2mから出来ることをまず始める！）、メンバー各自が明日からできる「行動宣言」を実施。その際に山田氏が宣言したのが「空き店舗を借りる」こと。
- ・ 実際に店舗を借り、まず毎朝出勤前の7～8時にシャッターを開けることから始めた。次に「朝食なのだ」で商店街内のパン屋さんのカツサンドを販売。そこから様々な活動を展開。
- ・ 小さな活動から仲間や活動が広がり、商店街への新規出店・移住者も増えた。
- ・ 空き店舗の清掃活動（店舗所有者にお金を払って、楽しめるワークショップとして開催）から始めることで、貸さない店舗だったところも貸してもらえるようになった。
- ・ 借りた店舗（現在5軒）は全部自分で運営するのではなく、新しくやってくれる人が現れれば、その人に任せるようにしている（それで仲間も増える）。
- ・ 昔のような高度成長時代は想像で施策を作ってもよかったが、今は現場を知らない施策は無意味。

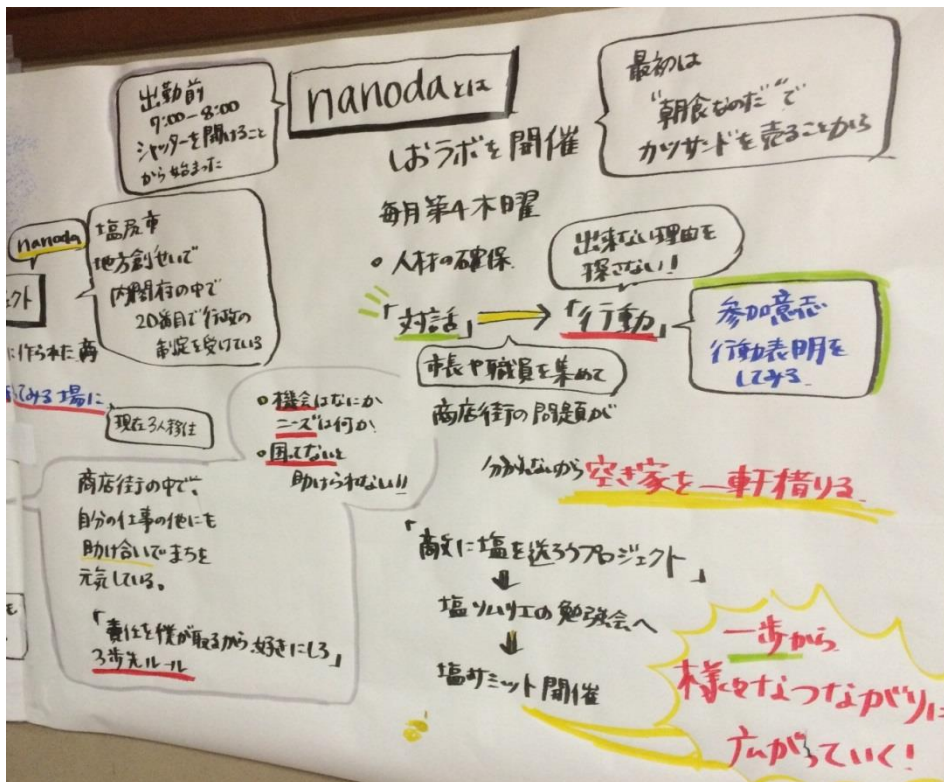
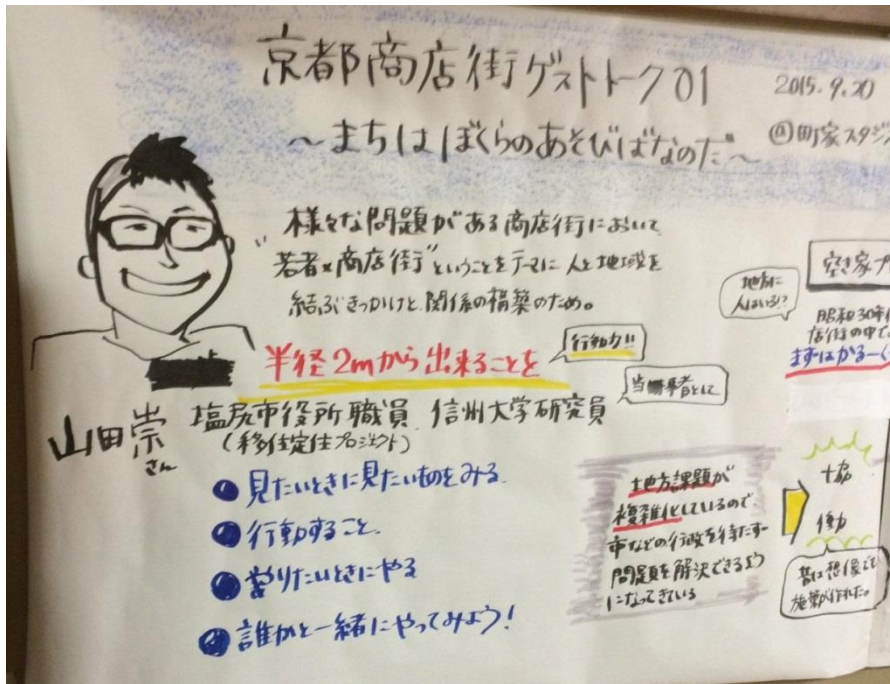
<山田氏 プロフィール>

塩尻市役所企画政策部企画課シティプロモーション係 主任、nanoda 代表

1975 年塩尻市生まれ。「地域の課題を想像で捉えるのではなく、実際に住んでみないと商店街の現状・課題はわからない」と、地元塩尻の”大門商店街”に空き家を借り、可能な限り閉まってしまったシャッターを開ける。そんな空き家・空き店舗を活用した「空き家から始まる商店街の賑わい創出プロジェクト nanoda (なのだ)」を 2012 年 4 月より開始。

「公務員が元気なら、地域は絶対元気になる」と、その熱に巻き込まれたメンバーとともに、nanoda を拠点に多様な活動を実施。2014 年 1 月「地域に飛び出す公務員アワード 2013」大賞を受賞。

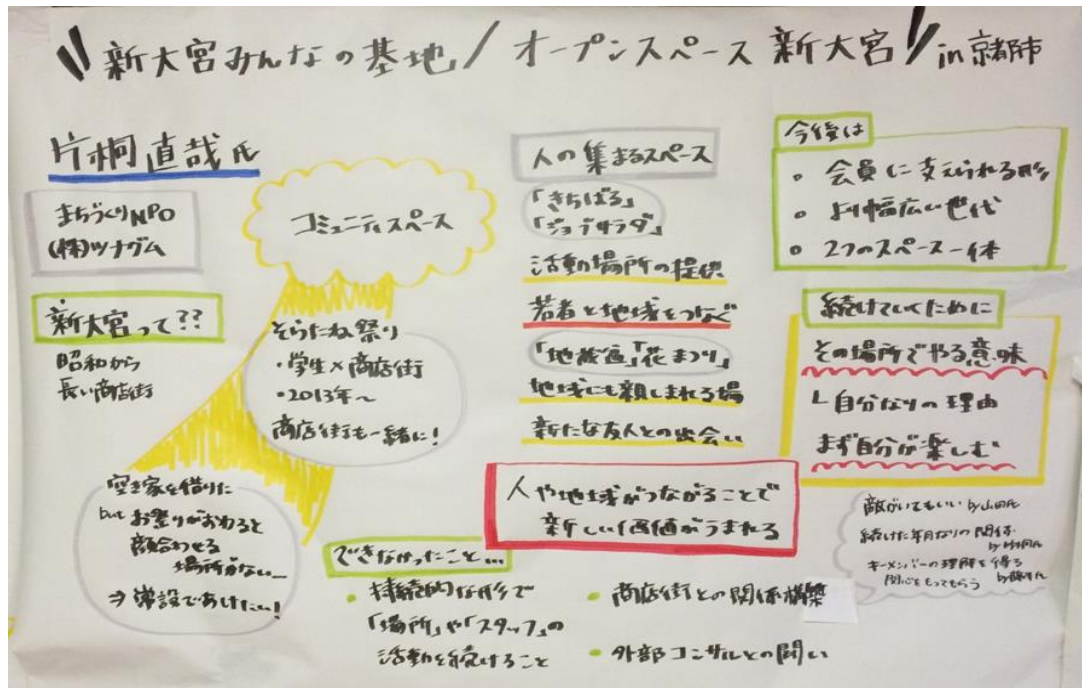
TED トークでの動画「元ナンパ師の市職員が挑戦する、すごく真面目でナンパな「地域活性化」の取り組み」が話題に。



■ 15時10分～ 関西地域からの活動紹介（2活動）

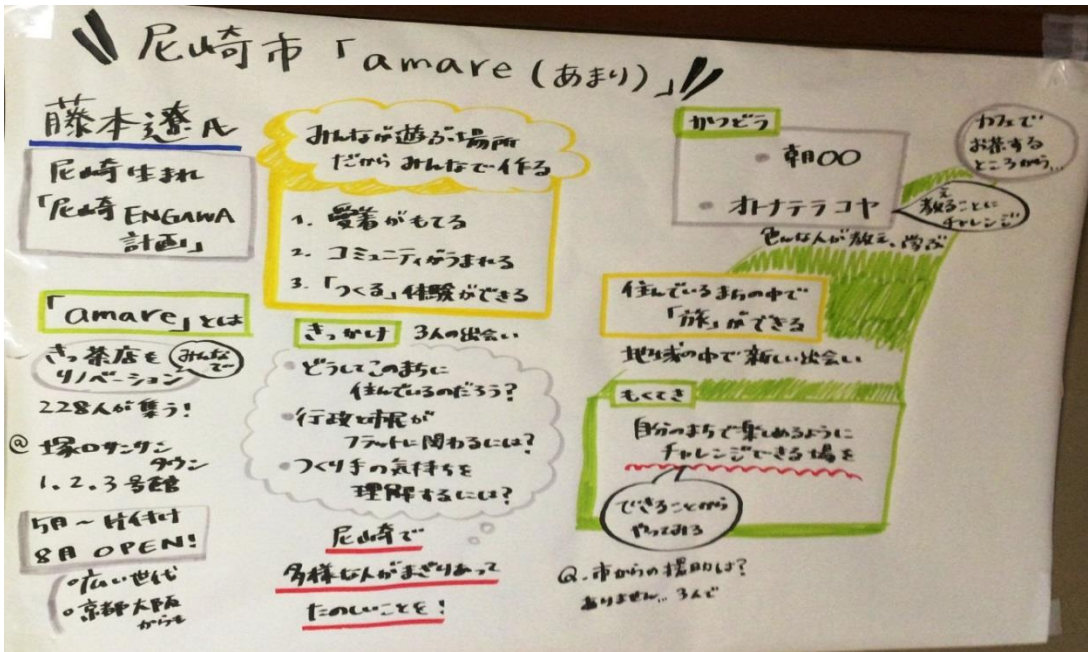
新大宮みんなの基地（京都市） 片桐直哉氏

- ・ 新大宮商店街には「そらたね祭り」で学生が以前から関わっていたが、祭りが終わると交流する場がない。このため「新大宮みんなの基地」をつくった。
- ・ 場をつくることで、商店街の役員にもなり、当事者として関わることができる。
- ・ 続けていくためには、まず自分が楽しめることが大切。



「amare (あまり)」(尼崎市) 藤本 遼氏

- ・ きっかけは藤本氏（尼崎ENGAWA計画）、江上氏（尼崎市役所職員、行政の立場ではなく、一市民として参画）、DIYショップ経営者の3人が、ある交流会で出会ったこと。
- ・ ビルの一角の空き店舗をリノベーションして「みんなの遊び場」をつくりたい! というこ
- ・ 空き店舗の片付け・リノベーションは、広く参加者を呼びかけ実施（幅広い世代、地域から、228人が参加）。みんなが遊ぶ場所だから、みんなで作る。この8月にオープン。



■15時45分～ 3者+参加者による質問セッション
参加者各自による「明日からの行動宣言」発表

■16時30分～ 「行動宣言」をもとに、参加者が、自由に交流・意見交換

5 主催：京都府

企画・運営：株式会社ツナグム

協力：株式会社基地計画、京都わかもん会議実行委員会